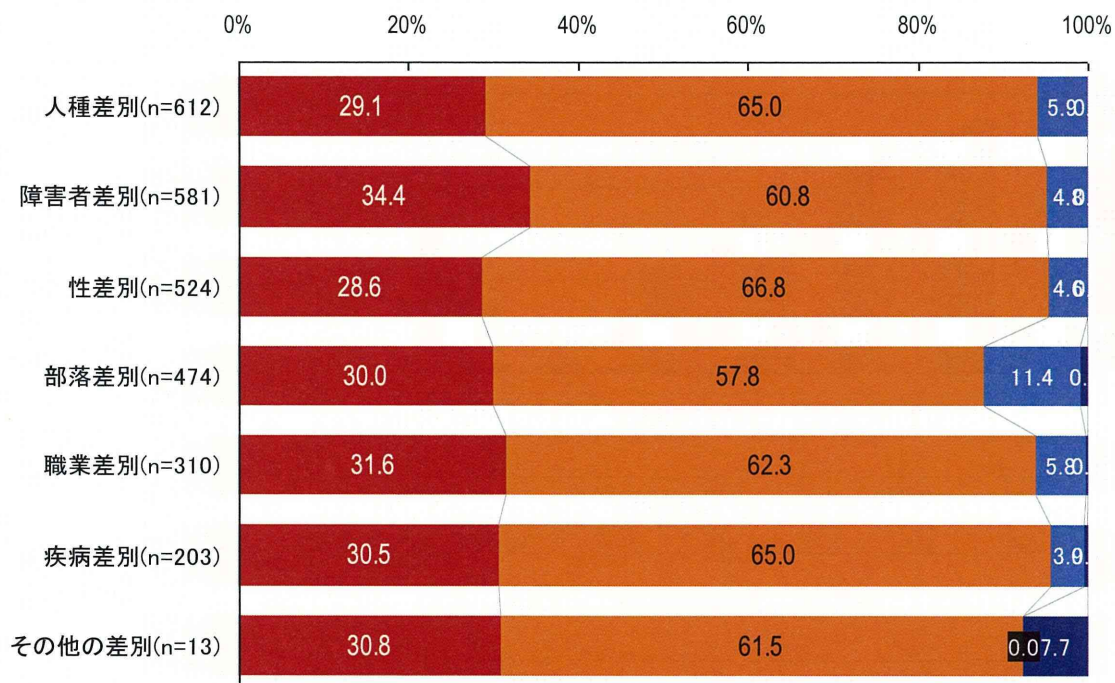


【図表Ⅲ－14】 人権問題の授業に対する反応

□学校教職員〔問Ⅲ-4〕 以下の問題を取り上げた時の授業内容について、生徒の反応はどうでしたか。最もあてはまるものを1つずつお答えください。(平成24年度報告書【資料11】 p.421)

人権問題の授業に対する反応(差別問題別)

- 質問、意見など、かなり関心を示した〔理解が進んだ〕
- 質問などはなかったが、ある程度の関心は示した
- ほとんど反応はなく、関心も示さなかった
- その他



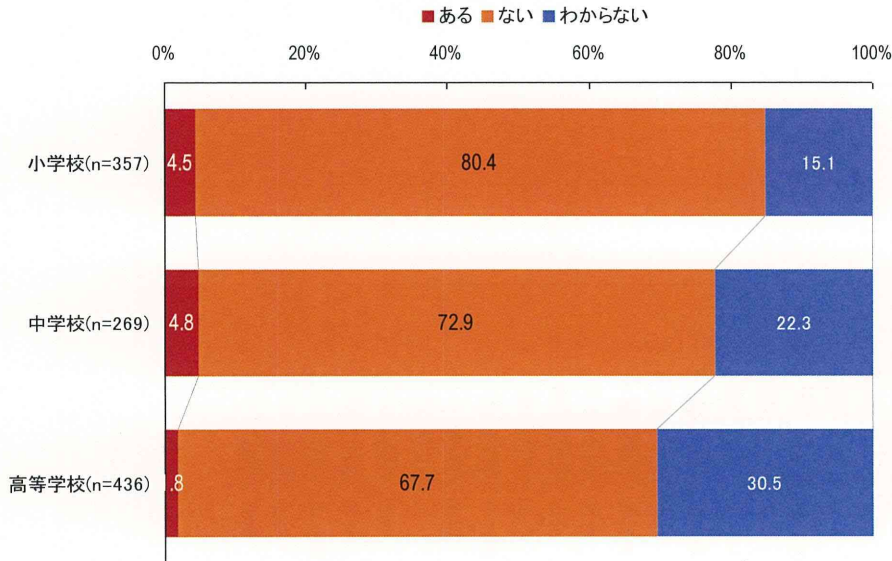
【図表Ⅲ－15】ウイルス性肝炎に罹患している生徒の担当クラスの在籍経験

□学校教職員〔問Ⅱ-7〕担当しているクラスにウイルス性肝炎（B型肝炎・C型肝炎）に罹患している生徒がいたことがありますか。（平成24年度報告書【資料11】p.413）

□学校教職員〔問Ⅱ-8〕担当しているクラスにウイルス性肝炎（B型肝炎・C型肝炎）に罹患している生徒がいた時に、何か困ったことがありましたら具体的にお書きください。（平成24年度報告書【資料11】p.413）

(1)

〔Ⅱ-7〕ウイルス性肝炎に罹った生徒の担当クラスの在籍経験



(2)

主な勤務先	性年代	困ったこと
小学校	女性50代	プール指導、宿泊を伴う学習時の入浴等、ケガをしている児童に気を遣った
小学校	男性40代	教員集団の偏見
小学校	男性50代	特に困ったわけではないが、全児童に、他人の血液にふれることがないように指導を行った。保護者から、感染症について、他人に知られたくないという申し出があり、それでも、他への感染は防がなければならないということであったので、病名は挙げずに、血液によって感染する病気もあるということを指導し、吐瀉物の処理や、排泄物の処理等と同じように、血液に関しても、直接手に触れないようにと指導してきた。特別に配慮するようなことをせずに、どの児童にも同じ対応してきた。
小学校	男性50代	ケガをしたときの対応がよく分からなかった。また、他の児童への説明。
小学校	男性50代	他の生徒の感覚、割と平気で人の血液に触れる
小学校	男性50代	鼻血を出す・転んで切り傷をつけるなどの処置
小学校	男性50代	衛生管理
小学校	男性50代	前担任がひどい差別をされていて、まわりの児童にB型肝炎は手をつないだりしただけで、うつらないことを教え、偏見を取り除くのが大変だった。
小学校	男性50代	周囲の子どもたちに知られずに血液感染を防ぐこと
小学校	男性50代	他の児童への感染
小学校	男性50代	担当していた重度の発達の遅れのある児童が感染していた。傷ができるとかさぶたをかきむしる子で、更に血液を机などのなすりつける行動をとる子であったので、他児童や自分への感染をとっても不安に思った。
中学校	女性40代	養護教諭に指導された知識しかなく、例えば、その生徒がけがをしたとして、不用意に血液や傷口をさわらないようにすることが難しかった。
中学校	女性50代	他の生徒に分からないようにする
中学校	女性50代	通常生活では伝染性はないと聞いているが、怪我の治療などには注意がいる。個人情報の観点から教師間の情報にとどめている。
中学校	男性50代	他の生徒に知らせないでほしいという要求があったとき
中学校	男性50代	ケガをしたときの手当
中学校	男性50代	学校の宿泊行事や、日常生活でのケガ、鼻血などの処理等、ほかの生徒にこの子の感染を知らせていないことから、適切な処置について指導ができなかった。
高等学校	女性20代	特にはないが、本人は感染していることを知らなかったので(親からの申し出でわかった)、血液検査の際も取り扱いに十分注意しながらも決して本人に知られることがないようにつとめた。
高等学校	男性50代	周りの生徒の正しい認識
高等学校	男性50代	就職用の履歴書に本人が「C型肝炎」と明記して持って来た時。
高等学校	男性50代	出血の時に注意するように

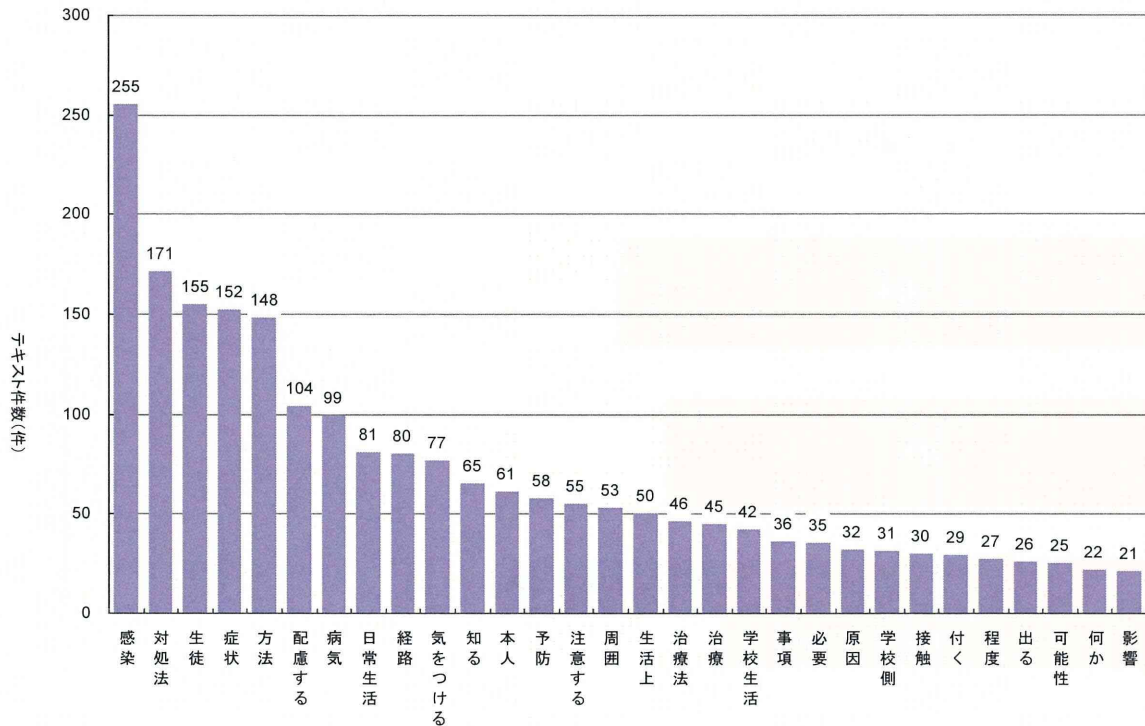
感染を他の生徒や本人に知られないように配慮しているケース

教師が偏見・差別をするケース

【図表Ⅲ－16】 ウイルス性肝炎に罹患している生徒の担当クラスの在籍経験

□学校教職員〔問Ⅱ-9〕 仮に担当しているクラスにウイルス性肝炎（B型肝炎・C型肝炎）に罹患している生徒がいたとしたら、あなたはどのようなことを知りたいと思いますか。（平成24年度報告書【資料11】 p.414）

出現ワード上位30位

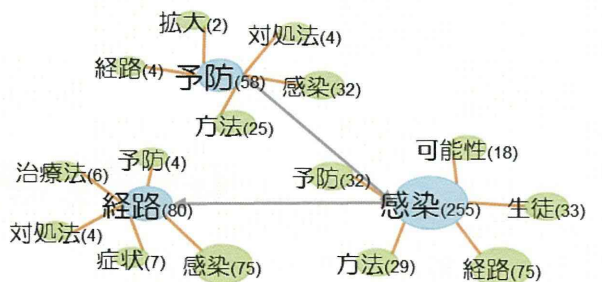


【Ⅱ-9】

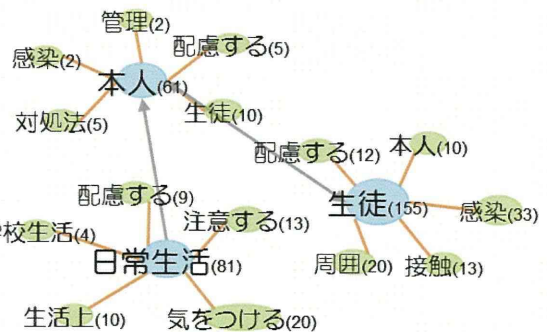
①病気



②感染



③罹患者本人への配慮



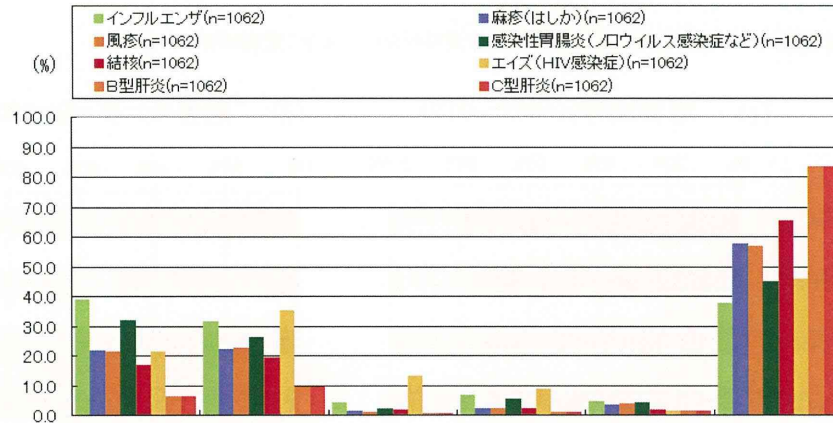
④周囲の生徒への配慮

※上位10位のワード(名詞)のマッピング

【図表Ⅲ－１７】 ウイルス性肝炎に罹患している生徒の担当クラスの在籍経験

□学校教職員〔問Ⅱ-10〕 学校やあなたに対して、以下の感染症の病態（症状）、予防方法、罹患者への対応などについて、外部からの情報提供がありますか。該当するものすべてをお答えください。（平成 24 年度報告書【資料 11】 p.416）

感染症に関する外部からの情報提供



	便覧、マニュアル	パンフレット	ビデオ・DVD	講習会、研修など	その他	情報提供がない
インフルエンザ(n=1062)	38.7	31.3	4.1	6.5	4.3	37.4
麻疹(はしか)(n=1062)	21.8	22.1	1.2	2.0	3.2	57.4
風疹(n=1062)	21.1	22.6	1.0	2.2	3.6	56.6
感染性胃腸炎(ノロウイルス感染症など)(n=1062)	31.9	26.3	2.0	5.4	4.0	45.1
結核(n=1062)	16.9	19.3	1.6	1.9	1.7	65.3
エイズ(HIV感染症)(n=1062)	21.4	35.1	13.1	8.6	1.2	45.8
B型肝炎(n=1062)	6.1	9.5	0.6	0.8	1.2	83.3
C型肝炎(n=1062)	6.1	9.4	0.6	0.8	1.2	83.4

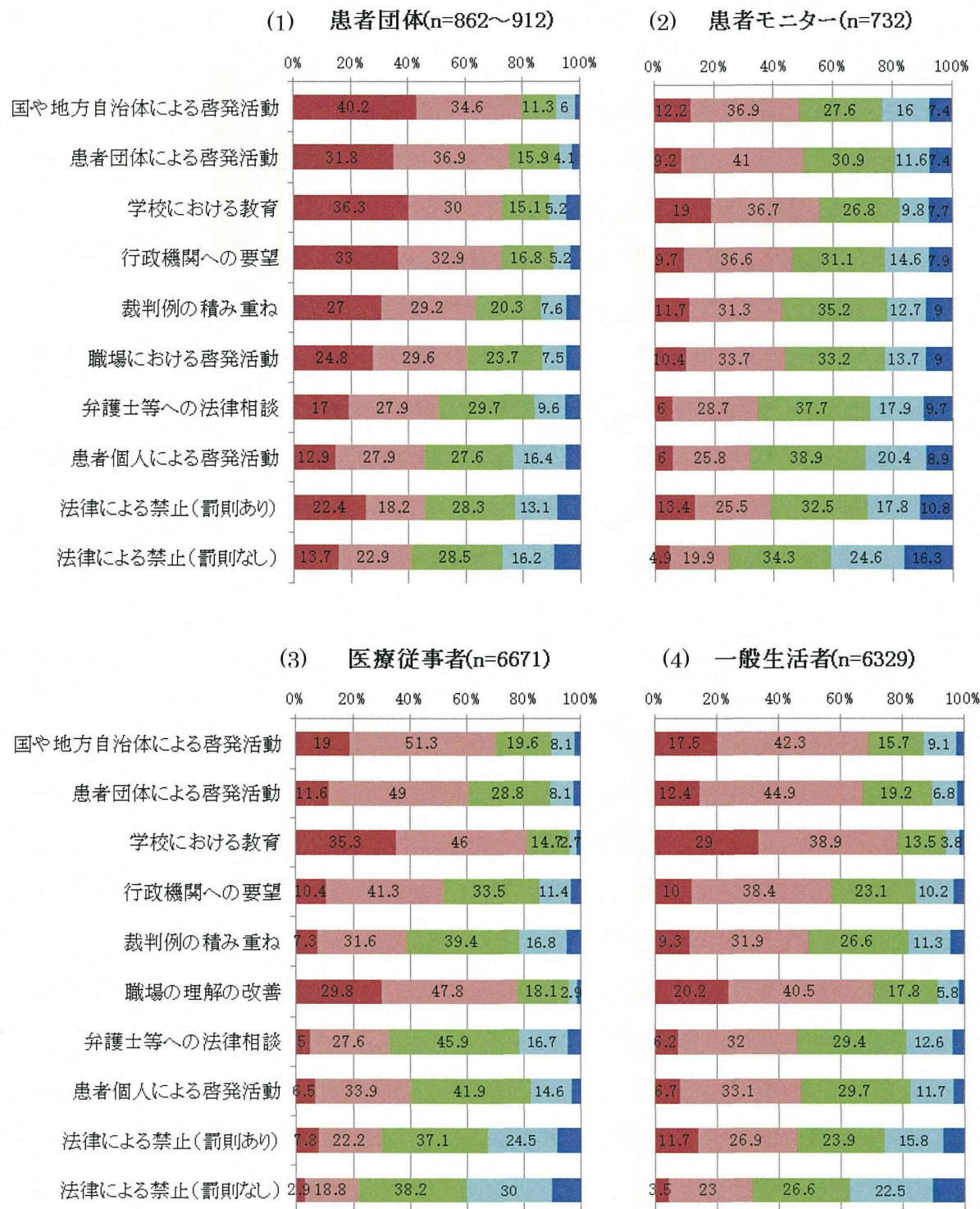
【図表Ⅲ－18】肝炎患者に対する偏見や差別防止策としての効果

□患者〔問 2-1〕あなたは以下の諸項目が、肝炎患者に対する偏見や差別の解消のために、どのくらい効果的だと思いますか。
 (平成 24 年度報告書【資料 1】 p.201)

□医療従事者〔問 1-6〕あなたは以下の諸項目が、肝炎患者に対する偏見や差別の解消のために、どのくらい効果的だと思いますか。
 (平成 24 年度報告書【資料 5】 p.296)

□一般生活者〔問 2-12〕B型・C型肝炎患者に対する偏見や差別の解消のために、以下の諸項目は、どのくらい効果的だと思いますか。
 (平成 24 年度報告書【資料 8】 p.345)

■大変効果的 ■多少は効果的 ■どちらともいえない ■あまり意味がない ■全く意味がない



【資料 15】

「ウイルス肝炎の伝播を防ぐためのガイドライン（日常生活編）」

このガイドラインは、ウイルス肝炎の伝播（でんぱ：病気が人から他の人にうつること）を防ぐために、一般の方が日常生活の場で注意すべき点について述べています。

肝炎ウイルスに感染する可能性のある行為	4
肝炎ウイルスに感染する可能性のない行為	5

第1部

日常生活の場での感染を防ぐために注意すべきこと

1 はじめに	6
2 すべての人のからだには微生物が存在しています	8
3 排泄物や体液のついたものに触れる際の注意	9
4 排泄物や体液を介した感染を防ぐために	11
5 ワクチンで予防できる感染症もあります	12

第2部

ウイルス肝炎の伝播を防ぐために

1 肝炎、ウイルス肝炎とはどのような病気か	13
2 ウイルス肝炎とその伝播経路	14
① A型肝炎・E型肝炎	
② B型肝炎・C型肝炎	
3 B型肝炎とC型肝炎の伝播を防ぐために	18
4 感染が起これないと考えられる代表的な日常行為	19
5 B型肝炎とC型肝炎の違い	21
6 B型肝炎・C型肝炎は制御可能な病気です	22
7 おわりに	23

3 B型肝炎とC型肝炎の伝播を防ぐために



- 血液・体液が付着した器具を十分に洗浄・消毒すること、そして洗浄・消毒してあることを確かめることが大切です。
- タオルや歯ブラシなどを共有しないことも大切です。

他人の血液や体液に接触する機会をできるだけ減らすことが基本です。日常生活の場において、それらに接触する機会はそれほど多くありません。血液・体液が付着した器具を十分に洗浄・消毒すること、そして洗浄・消毒してあることを確かめることが大切です。医療機関では通常、手術などに使用する器具を十分に洗浄・消毒していますので、安心して下さい。ひげそり刃やバリカン、ピアッサーなどは他人と共有しないことが原則です。やむを得ず共有する場合は十分に洗浄・消毒されていなければなりません。

B型肝炎の場合、5の項で述べる、ワクチンを接種するのも有効な方法です。

なお、寮などでは家族ではない一般の方々同士と一緒に暮らし、密接に接触する機会が増えます。こうした場合、タオルや歯ブラシなどを共有しないなどの注意が必要です。

B型・C型肝炎の防止



★「洗浄・消毒の方法について」はQ & A 8 (26P) を参照してください。

4 感染が起これないと考えられる代表的な日常行為

以下の行為では、B型肝炎やC型肝炎の伝播は起こりません。

- 会話
- 握手
- 会食（お皿に盛られた食べ物をとって一緒に食事することを含む）
- 目に見える汚染のない（血液や体液がついていない）場所（椅子、床、ドアのノブなど）にさわること
- 血液や体液がついていない物品（食器、筆記用具など）の共有
- 公共の場のトイレで、目に見える汚染のない便座に座ること
- シャワー、入浴（明らかに出血している人が居ない場合）*

* 月経中で出血が多いときは、浴槽に入ることを避ける、一番最後にタンポンを使用して入浴する、のいずれかにすることが望ましいです。浴室が血液で汚れた場合、水をよく流しておきます。B型肝炎ウイルスのキャリアの方の血液である場合は、念のため希釈した塩素系漂白剤を使って消毒してもよいですが、浴室に塩素がこもると危険なので、十分換気しながら行って下さい。

Q & A

感染経路 24

1. 血液を介して感染する感染症にはどのようなものがあるのでしょうか？
2. ウイルス肝炎はすべて血液を介して感染するのでしょうか？
3. 性交渉やキスで肝炎に感染するのでしょうか？
4. 友人にB型肝炎ウイルスキャリア（持続感染者）がいます。感染を防ぐにはどのようなことに注意すればよいのでしょうか？
5. 同居している祖父がB型肝炎ウイルスキャリアです。感染を防ぐにはどのようなことに注意すればよいのでしょうか？
6. C型肝炎の友人が怪我をしたので、傷の手当をしました。自分がC型肝炎に感染する危険性はあるのでしょうか？
7. 蚊に刺されることでウイルス肝炎に感染することはありますか？

予 防 26

8. B型肝炎ウイルスキャリアの友人の血液で机が汚れました。どのように処置をすればよいですか？
9. B型肝炎、C型肝炎は予防できますか？
10. B型肝炎のワクチンはどのようなものですか？
11. B型肝炎ワクチンはどのような人が打つのですか？
12. B型肝炎ワクチンの副作用はどのようなものがあるのでしょうか？

臨 床 29

13. B型肝炎ウイルスキャリア、B型肝炎はどのようにして診断しますか？
14. C型肝炎ウイルスキャリア、C型肝炎はどのようにして診断しますか？
15. 肝硬変、肝臓がんに進行するのはどのような場合ですか？
16. B型肝炎の治療にはどのようなものがありますか？また、治療によって肝硬変、肝臓がんへの進行を止めることができますか？
17. C型肝炎の治療にはどのようなものがありますか？また、治療によって肝硬変、肝臓がんへの進行を止めることができますか？

肝炎ウイルスに感染する可能性の

ある行為

血液・体液が体内に入る可能性の高い行為



- 傷や穴は絆創膏やガーゼで覆い、接触感染の危険性を減らしましょう。
- 医療器具やかみそり、歯ブラシ、ピアッサーなどを他人と共有することは避けましょう。

家族内・パートナー間などでの濃厚な接触
血液が付着している可能性のある物の共用

肝炎ウイルスに感染する可能性の

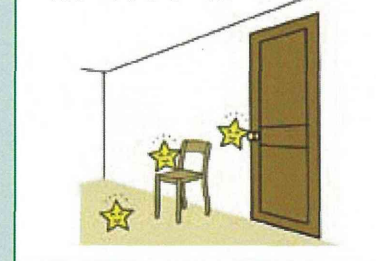
ない行為

血液・体液が体内に入る可能性の低い行為



清潔な（血液や体液がついてない）場所への接触・共有も大丈夫！

● 椅子・ドアノブ・床



● 公衆トイレ



● 筆記用具



● 食器



● シャワー・浴室

